

令和7年度
「市議会による行政評価」からの提言書
～いいだ未来デザイン2028「中期計画」の評価及び検証からの提言～

令和7年9月29日
飯 田 市 議 会

1 議会による行政評価の目的

令和7年度の「議会による行政評価」は、

- 飯田市自治基本条例第22条の規定に即し、市の執行機関の活動を監視することによって適正な行政運営の確保に努めること
- 議決事件とした基本構想基本計画の進行管理に関与することで、議会としての責任を果たすこと
- 決算期に基本構想基本計画の体系を踏まえて政策の評価を行い、その結果を次の予算審議時に反映させる行政評価の手法を用いた政策サイクルを実現することを 目的に実施した。

2 令和7年度の実施経過

いいだ未来デザイン2028中期計画4年間（令和3年度から6年度）の実施状況について、7月22日に執行機関側から説明を受け、総務、社会文教、産業建設の各分科会、及び必要に応じて連合会議において評価・意見集約し、予算決算委員会（9月11日）において全議員で共有した。

9月定例会では、各分科会の評価・意見集約を各マネジメントリーダーに提示し、必要に応じて担当部課長との意見交換を行うとともに、予算決算委員会（9月26日）において全議員で共有し、9月29日の本会議において決定した。

評価の視点

- 昨年度実施した中期計画3年間の評価に令和6年度を加えた4年間の評価を検証する視点
- 昨年度実施した後期計画（4年間）に向けた提言における執行機関からの回答を確認し、新たな視点があるかの視点

3 評価及び提言について

「中期計画の取組及び成果」の評価については、全ての基本目標において「概ね妥当」と評価し、その理由について基本目標毎に記載した。

「後期計画における施策実施に際しての留意事項」の評価については、後期計画の実施にあたり、新たな視点として留意する事項がある基本目標について提言としてまとめた。

「中期計画」の評価

～「中期計画の取組及び成果」から～

基本目標 1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	産業建設 分科会
評価	概ね妥当	
【理由】 ・ コロナ禍、コロナ5類移行後の経済対策においてサテライトオフィスの誘致や地域ポイントの実証実験に着手してきた点を特に評価する。		

基本目標2	飯田の魅力を発信し、つながる人を増やし、飯田市への人の流れをつくる	総務 分科会
評価	概ね妥当	
【理由】		
・ コロナ禍の影響を受けた4年間、「魅力を発信し、つながる人を増やし、人の流れをつくる」ことは、基本目標としては大変難しい側面があったかと思うが、KPIとしてのウェブサイトのユーザー数やフォロワー数、インターシップ受入企業数、移住相談件数、UIターン移住者数などの数値が概ね上昇していることは評価できる。一方で、若者（新規高卒・大卒）の地域内就職率については、横ばい・下降傾向が続いており、「つなぐ事業」等の今後の展開に期待したい。		

基本目標3	“結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む	社会文教 分科会
評価	概ね妥当	
【理由】 ・ コロナ禍における教育環境を、ICTの活用等により在宅学習を可能にしたことで整えた。		

基本目標4	豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む	社会文教 分科会
評価	概ね妥当	
【理由】 ・ 様々な試みによって、自分たちの故郷を自分たちでも守るという意識を醸成する努力をしている。		

基本目標 5	文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる	社会文教 分科会
評価	概ね妥当	

基本目標 6	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	社会文教 分科会
評価	概ね妥当	

基本目標 7	「市民総健康」と「生涯現役」をめざす	社会文教 分科会
評価	概ね妥当	

基本目標 8	共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる	社会文教 分科会
評価	概ね妥当	

基本目標 9	20 地区が輝く生き活きとした地域づくりを地域主体に進める	総務 分科会
評価	概ね妥当	

【理由】

- ・ 市内 20 地区すべての地区において、基本構想・基本計画が策定されており、KPI から
も 17 地区において、計画の改定・見直しが行われたことは、地域の主体性が伺え評
価できる。また行政としての各まちづくり委員会の取組支援、組合未加入世帯へのア
プローチ方法の提示などの取り組みは評価できる。一方で、自治基本条例が施行され
17 年が経過し、地域自治を推進していく各地区の環境変化（人口減少や高齢化、定年
延長などによる役員の担い手不足、組合未加入の課題、女性の参加など）も顕在化さ
れ、その課題は多くの地区で未だ解決されていないと認識している。持続的な活動に
つながるよう継続した取り組みに期待したい。

基本目標10	個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる	総務 分科会
評価	概ね妥当	
【理由】 ・「ムトスぷらざ」を開設し、相談窓口の常設、団体活動への助成事業などを展開し、市民によるさまざまな交流事業につながっていることは、評価できる。		

基本目標11	地球環境への配慮が当たり前の暮らしとまちづくりの推進	総務 分科会
評価	概ね妥当	
【理由】 ・ 地域マイクログリッド構築の取り組み、環境文化都市づくりプラットホーム「うごく る。」の取り組みなど評価できる。3Rの推進については、市民生活に密着した、よ り身近に取り組める内容となるよう、「リサイクルの見える化」など一層の取り組み に期待したい。		

基本目標12	災害や社会リスクに備え、社会基盤を強化し、地域防災力の向上を図る	総務 分科会
評価	概ね妥当	
【理由】		
・ 防災行政無線のデジタル化を計画的に行ったこと、消防力整備計画に基づき、詰所の整備や車両等の更新を行ったこと、また防災訓練においては、地域の避難所開設訓練等の支援を行ったこと、行政としても災害廃棄物処理の想定など、より実践的な訓練につなげていることは評価できる。能登半島地震からの当市に生かす 10 項目については、いいだ未来デザイン 2028 後期計画、基本目標 2 ・ 小戦略②の中で注視していく。		

基本目標13	リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する	産業建設 分科会
評価	概ね妥当	

後期計画の施策への提言

～「後期計画における施策実施に際しての留意事項」から～

基本目標 1	市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちをつくる
提言	【総務分科会】 ・移住定住については、現在、結いターン移住定住推進課が設置され、さまざまな事業を展開していただいているが、移住希望者のニーズに応じたきめ細かな相談支援、人と人とのつながり、地域コミュニティのつながり、空き家の活用など、実務を進めていく上では地域の皆さんと行政の協働した取り組みが重要になる。その推進体制をどう構築していくか（例えば、移住コンシェルジュなのか、地域のキーマンなのか、自治振興センターの支援体制強化なのか）、各地域の実情を加味した支援体制を検討されたい。 ・あくまで地域の主体性にゆだねるべきものだが、今年度事業展開されている地域分析（人口診断分析・地域関係相関図）と20地区の基本構想・基本計画との連動の視点も含め、展開されたい。 ・今年度は、第2次中山間地域振興計画（2019～2028年）の中期計画（2022～2025年度）の最終年度となる。4年間の中期計画の検証を行うとともに、社会情勢を踏まえた後期計画（2026～2028年度）の重点事業と連動した取り組みを展開されたい。（いいだ未来デザイン 2028 後期計画では、基本目標 1・小戦略①(3)のみ）。 ・日常生活における多文化共生の視点からの事業を展開されたい。（外国語相談窓口に寄せられた外国人の方からのご意見、逆に日本人から外国人の方へのご意見等の庁内周知、対応など） 【産業建設委員会】 ・地域の産業を担う人材育成には、子どもの頃から地域の大人や地元企業と接する機会を増やし地域産業への興味や関心を持たせる仕組みを構築し実施されたい（基本目標 5 の再掲）。
基本目標 2	人がつながり助け合い、社会基盤を強化して安全・安心なまちをつくる
提言	【総務分科会】 ・能登半島地震からの当市に生かす 10 項目に掲載され、いいだ未来デザイン 2028 後期計画、基本目標 2・小戦略②に見当たらない 3 項目の視点を加えられたい。（⑤受援体制の整備、⑥孤立集落発生を前提とした準備、⑨災害弱者にも伝わる情報発信）

基本目標 3	飯田で育ってよかった・育ててよかったと実感できるまちをつくる
提言	【社会文教分科会】 ・さらに多くの企業で、ママが産休から育休を連続して取得できるように、またパパの育休取得が増加するように、より庁内連携を進められたい。 【産業建設委員会】 ・地域の産業を担う人材育成には、子どもの頃から地域の大人や地元企業と接する機会を増やし地域産業への興味や関心を持たせる仕組みを構築し実施されたい（基本目標 5 の再掲）。

基本目標 4	自然と共に歩む豊かな循環型社会をつくる
	・新たな視点については特段なし。

基本目標 5	誰もが多様な働き方で活躍でき、次世代につながる魅力ある産業をつくる
提言	【社会文教分科会】 ・さらに多くの企業で、ママが産休から育休を連続して取得できるように、またパパの育休取得が増加するように、より庁内連携を進められたい。（基本目標 3 の再掲） 【産業建設分科会】 ・「魅力ある産業」をつくる視点から、人材育成・人材確保の強化を含め民間企業との連携による森林資源を更に活用する取組を推進されたい。 ・中山間地域などの遊休農地を活用し「農ある豊かな暮らし」の応援のための市民農園の拡大に取り組まれたい。 ・観光産業については、サステナブルツーリズムの推進とともに、発信力のある人材の活用も視野に入れ様々なメディアを通じた飯田ならではの魅力を力強く発信し更なる誘客に取り組まれたい。 ・地域の産業を担う人材育成には、子どもの頃から地域の大人や地元企業と接する機会を増やし地域産業への興味や関心を持たせる仕組みを構築し実施されたい。

基本目標 6	誰もが生涯を通じてその人らしく暮らすまちをつくる
提言	【社会文教分科会】 ・独居高齢者世帯の増加による孤立・孤独から市民一人ひとりの尊厳を守る活動の必要性が増している。終活支援(エンディングサポート事業等)など、他市の状況を調査し、当市の取組を研究されたい。

基本目標 7	リニア・三遠南信道時代に向けたまちの基盤をつくる
提言	【産業建設分科会】 ・社会基盤の強化にあたって、物価高騰や人件費の増額などの社会情勢の影響が想定されるため、緊急度や優先度を踏まえた効率的な整備と適切な維持管理を進められたい。